

第14回 日本語コミュニケーション研究会

開催日時：2022年3月16日(水) 9:30 - 17:00

開催方法：オンライン (Zoom) 開催

【主催】科学研究費補助金

平成30年度 - 令和3年度 (基盤研究B) 研究課題「日本語配慮表現辞典の基盤形成のための配慮表現正用・誤用データベースの構築」(研究代表者 山岡政紀)

平成29年度 - 令和2年度 (基盤研究C) 研究課題「日本語学習者のポライトネスに関わる言語運用についての基礎的研究」(研究代表者 牧原功)

令和3年度 - 6年度 (基盤研究B) 研究課題「CEFRの文脈化と日本語・日本語教育への応用」(研究代表者 小野正樹)

【プログラム】

- 9:30 - 9:35 開始の挨拶・説明
- 9:40 - 10:10 大堀裕美 (東北大学 非常勤)
「慣習化したモダリティ表現群 ~余計だけど余計じゃないもの~」
- 10:15 - 10:45 甲田直美 (東北大学)
「非明示的伝達と接続表現の変化」
- 10:55 - 11:25 李奇楠 (北京大学)
「ほめことばについての日中対照」
- 11:30 - 12:00 牧原功 (群馬大学)
「させていただく」の丁寧語化について」
- 13:00 - 14:00 山岡政紀 (創価大学)
〔基調報告〕「配慮表現データベース現課題の総括と新課題の構想」
- 14:00 - 14:30 大和啓子 (群馬大学)
「断りの配慮表現「せっかくですが、今日はやめておきます」の分析」
- 14:35 - 15:05 日暮康晴 (筑波大学大学院 院生)
「(間) 主観化による『すごく』の形式分岐
—コーパス比較による通時的調査—」
- 15:15 - 15:45 LIU FEI (筑波大学 国際日本研究学位プログラム)
「誤用の訂正に関する日本語母語話者の意識
—Web会議システムを利用した日本語学習に着目して—」
- 15:50 - 16:20 陳雨詩・伊藤秀明 (筑波大学国際日本研究学位プログラム、筑波大学)
「中国人日本語学習者にとって自他動詞のどこが難しいのか
—語用論的な側面に注目して—」
- 16:25 - 16:55 小野正樹 (筑波大学)
「「CEFRの文脈化と日本語・日本語教育研究への応用」の2021年度報告
—数値化に向けて—」
- 16:55 - 17:00 終了の挨拶